

令和 2 年 3 月 27 日

文化庁 共同研究事業事務局 御中

機 関 名 学校法人東成学園
代表者名 理事長 下八川 共祐

文化庁・大学等共同研究事業成果報告書

文化庁と大学・研究機関等との共同研究事業について、下記のとおり報告します。

		<input checked="" type="checkbox"/> 公募型共同研究	<input type="checkbox"/> 提案型共同研究
1 名 称	東アジアの実演芸術による国際文化交流の展望		
2 期 間	平成 31 年 4 月 1 日 から 令和 2 年 3 月 31 日まで		
3 研究成果	<p>(実施した内容を具体的にご記入ください。あわせて3年間の総括についても記載をお願いします。[別添可])</p> <p>別 添</p>		
4 その他	<p>(文化庁と大学・研究機関等との共同研究事業についてのご意見、ご要望等ありましたら、こちらにご記入ください。)</p> <p>特になし。</p>		

東アジアの実演芸術による国際文化交流の展望 研究成果

【平成 31 年／令和元年度研究成果】

東アジアの実演芸術による国際文化交流を展望するため、これまで 2 か年度の研究成果を踏まえた上で、日本・中国・韓国の 3 か国間文化芸術交流を、確かなものとして見通すことを目的とした研究を引き続き実施した。

■文化庁「平成 31 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業《日本のオペラ作品をつくる～オペラ創作人材育成事業》」

・公開ワークショップ「我々は、なぜオペラをつくるのか～池辺晋一郎とイ・ゴニョンを迎えて」

6 月 6 日（木）／昭和音楽大学南校舎 C511 教室

ファシリテータ：池辺晋一郎・作曲家、郡愛子・声楽家／日本オペラ協会総監督、齊藤理恵子・演出家／劇団青年座

アドバイザー：李建鏞(作曲家／韓国・世宗カメラータ創設者)

コーディネータ：馬場紀雄(演出家／昭和音楽大学講師)

モデレーター：石田麻子(昭和音楽大学教授・オペラ研究所所長)

他

■文化庁「平成 31 年度大学における文化芸術推進事業《アートマネジメント人材育成事業「実演舞台芸術プロデューサー養成講座」》」

・公開講座「アジアから世界へ～オペラ公演制作におけるグローバルセッション」

9 月 9 日（月）／昭和音楽大学ユリホール

パネリスト：大野和士・新国立劇場オペラ芸術監督／東京都交響楽団音楽監督／バルセロナ交響楽団音楽監督、イ・ギョンジェ (Kyoung-Jae Lee)・ソウル市オペラ団団長／オペラ演出家

ゲスト：吉田 純子（朝日新聞東京本社 文化くらし報道部次長・編集委員）

モデレーター：石田麻子

・昭和音楽大学オペラ公演 2019

10 月 5 日（土）・6 日（日）／昭和音楽大学 テアトロ・ジーリオ・ショウワ

演目：W.A.モーツァルト作曲《フィガロの結婚》

■研究成果の発信

全国の劇場・音楽堂等の職員が集まる、文化庁・公立文化施設協会主催の研修会の講座において、約 300 名の受講生に対して、3 か年度にわたる研究の成果について報告し、広く共有を図った。

・全国劇場・音楽堂等職員 アートマネジメント・舞台技術研修会 2020

アートマネジメント関連講座「超・文化政策入門—文化芸術組織の運営からみた各国の文化政策のいま—」

2 月 5 日（水）／国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 417 号室

講師：山口壮八（文化庁地域創生本部暮らしの文化・アートグループ リーダー）
モデレーター・講師：石田麻子（昭和音楽大学舞台芸術政策研究所 所長・教授）
主催：文化庁、（公財）全国公立文化施設協会

【共同研究総括】

初年度の平成 29 年度は、日本・中国・韓国の実演芸術創造のリーダーを招いて、国際シンポジウムを開催した。各国で培われてきた伝統文化、あるいは基盤となる文化芸術活動を発展させながら、3 か国それぞれが、いかに新たな実演芸術創造を行っているのかを確認し、今後、3 か国間の文化芸術を通じた国際交流の未来を見通すための討議を展開して、広く一般と共有する機会とすることができた。

2 年度目の平成 30 年度は、本学の国際共同制作による大学オペラ公演における日本・中国・韓国の若手歌手の交流により、教育機関の連繋を通じた国際協働の可能性について展望するとともに、韓国における創作オペラあるいは中国のオペラ制作の現場について研究を進めた。また初年度に行ったシンポジウムの詳細な報告書を作成することで、研究成果を広く社会に共有することを企図した。

最終年度の平成 31 / 令和元年度は、日本・韓国を代表する作曲家による創作オペラについての公開ワークショップ、日本・韓国オペラ劇場・団体の指導者によるオペラ公演制作についての公開講座の実施を通じて、アジアから世界へとオペラを発信する可能性を探った。また前年度に引き続き、国際共同制作による大学オペラ公演での日本・中国・韓国の若手歌手の交流を進め、研究成果の共有としても劇場・音楽堂等の関係者が集まる研修会において報告を実施した。

これらを通じて、文化庁と音楽大学の共同研究という形により、3 か国間の文化芸術交流を政策的に展開する上での、基礎的な研究として十分な成果を出すことが出来たのではないかと考える。